

親潮

北水同窓会誌

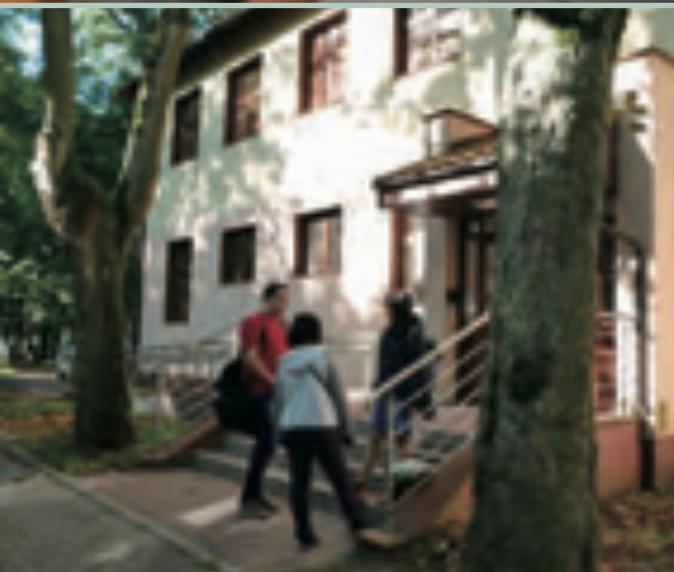
2016
308

No.2

第308号
平成28年度 第2号

OYASHIO

北水同窓会のEメールアドレスが変更になりました | ホームページをリニューアルしました
hokusualumni@gmail.com | http://hokusui.net



特集

北水の今

ヴァルミア・マズールィ大学における
海外ラーニングサテライトの開催
ポーランドでのサマーコースに参加して

総会案内 会員の受賞 各種行事開催報告 追悼 クラス会報告 寄稿 ほか

第308号
平成28年度 第2号
OYASHIO

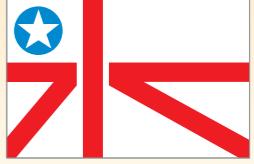
CONTENTS

第97回(2017年)北水同窓会定期総会 開催案内	3
特集 北水の今	
ヴァルミア・マズールイ大学における海外ラーニングサテライトの開催	4
笠井 久会(平12資) / 藤本 貴史(平12生) / 都木 靖彰(昭59ソ)	
ポーランドでのサマーコースに参加して	7
遠藤 充(平27増生)	
会員の受賞	9
齊藤 誠一氏(昭50ギ)	
北海道大学ホームカミングデー 2016	10
水産学部卒業生のつどい	
高木 力(平元ギ)	
追悼	11
北出 弘氏(昭52ギ)	
支部会・クラス会報告	12
第21回 臥洋会(昭和36年卒同期会)開催報告	
第3回 昭和44年卒北水漁業学科同期会	
Feed Forward! 第三回「漁火会」開催報告	
同窓会報告(長崎支部)	
北水同窓会大阪府支部 平成28年度総会・講演会・懇親会報告	
北水同窓会富山県支部総会	
北水同窓会宮城県支部80周年記念総会及び懇親会	
寄稿	18
西川 和夫(昭44食) / 吉村 直孝(平3ソ)	
学位取得者	23
会員の異動	24
会員死亡通知	25
親潮投稿規定・編集後記	26



第97回(2017年)

北水同窓会 定期総会



開催案内

[青森市にて開催!]

日 時 ● 2017年5月27日(土)

18:00～ 総会開始
総会終了後懇親会

会 場 ● ウエディングプラザ アラスカ

〒030-0810 青森市新町1-11-22
Tel: 017-723-2233
Fax: 017-723-2361

総会費 ● 5,000円

女性は3,000円(同伴の奥様も)
※会費は5月27日(土)当日の会場でのみ受付とします。



お申込み先

参加ご希望の方は下の参加申込書にご記入の上、**4月28日(金)必着**で下記へお申し込みください。
〒030-0812 青森市堤町2-2-21 海洋土木(株)青森営業所 山口 伸治 宛て
TEL: 017-773-1926(FAX兼用) E-mail: aomori@kaiyodoboku.com

お問い合わせ先

電話 090-2315-3134 青森支部幹事長 山口伸治(S49化)

FAXまたは郵送にてお申し込みの場合は、このページをコピーして送信用紙としてお使いください。

-----キリトリ線----- > ----- < -----キリトリ線-----

（海洋土木(株)青森営業所 山口 伸治 宛）

FAX 送付先 017-773-1926

第97回 北水同窓会 定期総会 参加申込書

(1名毎に記載願います)

ふりがな	卒業年次	学科
お名前	明・大・昭・平	年
ご住所 〒() - ()		
電話 ()	FAX ()	E-mail:
参加申込欄 右記の□に✓をお願いします		<input type="checkbox"/> 北水同窓会定期総会 <input type="checkbox"/> 懇親会
通信欄		

ヴァルミア・マズールイ大学における海外ラーニングサテライトの開催

笠井 久会(平12資) / 藤本 貴史(平12生) / 都木 靖彰(昭59ゾ)



コース運営スタッフならびに参加者

■はじめに

北海道大学では現在、文科省のスーパーグローバル大学等事業の支援を受け、「グローバル人材」を育成する目的で北大生の留学支援に力を入れています。その一環として、水産学部で特に力を入れているのが海外ラーニングサテライト(Learning Satellite、略してLS)の展開です。LSとは、海外の大学と連携して、北海道大学の講義や実習を海外において実施する試みです。

水産学部では2016年度に、東南アジア漁業開発センター(タイ)、シンガポール国立大学(シンガポール)、南ボヘミア大学(チェコ)、ヴァルミア・マズールイ大学(以下UWM、ポーランド)と協働して4つのLSを主催しました。東南アジア漁業開発センターにおけるコースは「沿岸生態系と水産資源の活用」、シンガポール国立大学におけるコースは「日本とシンガポールにおける水産物供給チェーンの比較」、南ボヘミア大学でのコースは

「内水面養殖業」、UWMでのコースは「ポーランドにおける水圏生物学および内陸環境科学」を主題にしたもので、それぞれに特徴があり、学生の広範な興味に添える内容をめざしています。また、各コースともに、ただ海外で水産学を勉強するだけでなく、その国の文化や歴史も学べるようにプログラムが工夫されています。

学生は北海道大学からの支援を受けて1~2週間海外に滞在し、連携先の学生と一緒に短期集中講義形式のプログラムに参加します。プログラムは講義だけではなく、実習やグループディスカッション、プレゼンテーションなど、アクティブに学生自身が参加する形式になっています。講義や実習の時間だけでなく、講義後の時間も北大生と海外の学生が一緒に過ごすことになるため、普通の海外旅行では経験できない、濃密な時間を北大生は海外で経験することになります。本稿では、平成28年9月11日から24日にかけUWMで開催されたコースについて詳しく紹介いたします。

表1. UWMコースのカリキュラム(一部抜粋)

9月13日(木)		
9:30-11:00 (2時間)	「講義: ポーランド内水面に生息する生物: 最も典型的な分類群の特徴、適応と制限」Stanisław Czachorowski教授	
11:00-13:15 (3時間)	「野外実習: Kortowskie湖や近隣河川に生息する主な昆蟲類の分類」Stanisław Czachorowski教授	
13:15-14:15	昼食	
14:15-17:15 (4時間)	「実験: ポーランドにおけるギベリオブナ <i>Carassius gibelio</i> (Teleostei, Cyprinidae) 両性生殖集団の雄の生殖腺組織学的解析」Dorota Juchno博士	「実験: ギベリオブナ <i>Carassius gibelio</i> の異なる倍数性個体における5SリボソームDNAの配列長と染色体マッピング」Aleksandra Szabelska(博士課程), Lech Kitiklis博士
9月14日(金)		
9:30-11:00 (2時間)	「講義: 遺伝学的な手法による分類・同定法」Lech Kitiklis博士	
11:00-12:30 (2時間)	「実験: 分子生物学的手法による淡水魚の分類」Lech Kitiklis博士, Olga Jablonska博士	
12:30-13:30	昼食	
13:30-15:00 (2時間)	「実験: 分子生物学的手法による淡水魚の分類」(継続)	
15:00-17:15 (3時間)	「実験: ポーランドにおけるギベリオブナ <i>Carassius gibelio</i> (Teleostei, Cyprinidae) 両性生殖集団の雄の生殖腺組織学的解析」Dorota Juchno博士	「実験: ギベリオブナ <i>Carassius gibelio</i> の異なる倍数性個体における5SリボソームDNAの配列長と染色体マッピング」Aleksandra Szabelska(博士課程), Lech Kitiklis博士

■カリキュラム

本コースのカリキュラムは、水産学部内に設置された国際教育室とUWMのAlicja BORON教授により構築されました。本コースには水産学部の大学院生4名とUWM所属の大学生4名が参加し、参加学生には単位が与えられます。単位の認定に必要な授業時間数は北大とUWMで異なるため、それぞれの大学の基準を満たす授業時間数を確保することが第一に重要です。本コースのテーマは「Hydrobiology and inland environmental science in Poland」(ポーランドにおける水圏生物学および内陸環境科学)となりました。UWMがあるオルシュティン市はポーランドの北部内陸地方にあり、付近に多数の湖沼がある水資源の豊かな地域です。UWMでは周囲の環境を活かした教育・研究が展開されており、「水圏生物学」を体系立てて学ぶには申し分ない環境です。日本側からもテーマに合わせ3名の教員による講義を提供しました。本コースでは、講義に加え現地実習や4つの研究テーマに基づく実験の機会が設けられました。参加学生は、4つの研究テーマのうち2つを選択し、UWMの若手教員や博士課程学生の指導のもと、ハイレベルな実験を行います。参加学生8名に対し、講義には水産学部・UWM合計9名の教員、実験指導にはUWMの7名のスタッフが携わり、質の高い少人数教育を実現することができました。次項では、9月13日と14日の講義・実習風景について紹介します。

■授業の様子

9月13・14日のカリキュラムを表1に示します。1日のはじめに講義があり、続いて講義の内容に基づく実習が組まれ、午後は研究テーマごとに分かれ実験を行います。9月13日の講義は、ポーランド内陸部の水圏に生息する動物や昆蟲の分類・生態に関する内容でした(写真1)。講義後には、大学近辺の河川や湖沼に徒歩で向い、その場で採取した水生昆蟲等の観察を行いました。講師自ら様々な生物を採取し、学生に渡しています。短時間で多くの種を観察することができ、ポーランドの湖沼・河川の生物多様性にふれて実感する機

写真1. 受講の様子





写真2. 野外実習の様子

会となりました（写真2）。昼食はUWM学生とともに学内のカフェテリアでります。メニューはポーランド語のみの表記ですが、UWM学生のサポートにより北大生も好みに合った食事を選ぶことができます。午後は2班に分かれ、北大生とUWM学生がペアとなって実験に励みます（写真3）。実験の説明は英語で行われ、パートナーの学生とも英語で意思疎通を図る必要があります。実験ではお互いに協力し合って実験を進め、得られた結果については各班で考察し、最終日に英語での発表を行いました。

14日は分子生物学的手法を用いた種分類に関する講義を受け、次いで実際に講義内容に基づく魚類の種分類を行いました。午後は13日同様に各自の研究テーマに取り組みました。

■将来の方向性

水産学部では、北大生のさらなる留学促進をめざしています。今後は大学院教育の目標の一つである研究者育成のグローバル化に役立つ、長期研究留学を実現すべく努力を続けていきます。そのためには海外連携校との国際共同研究プロジェクトの推進が大いに役立つでしょう。国際共同研究プロジェクトに学生が参

加することで、学生が海外研究室を訪れ、そこで海外研究者とともに研究をおこなうチャンスが増えるものと予想されます。加えて、外国人留学生の受け入れや海外からの訪問研究者の受け入れを通じて、函館キャンパスのさらなる国際化をはかり、世界における水産科学研究の中核機関としての役割を果たして参ります。そのためには、国際共同研究を推進できる科学分野のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、英語論文執筆能力の涵養などがこれまで以上に重要になります。水産学部では、学部や大学院の新規カリキュラムの開発も含め、今後も様々な創意と工夫でグローバル教育を推進します。

■終わりに

実習や実験に多くの時間が割かれていることが本コースの特徴ですが、それを実現するにはUWM側のスタッフによる入念な準備が必要です。UWM側の惜しみない協力に深く感謝する次第です。

現在実施されているコースは、大学院生に限らず学部学生も参加可能です。英語での講義や実験など、難しいように感じるかも知れませんが、越えられないハードルではありません。UWMのほかにも、アジア、米国および欧州に様々な留学先が用意されていますので、現役学生の皆さんの積極的な応募を期待しています。



写真3. 実験風景

ポーランドでのサマーコースに参加して

遠藤 充（平27増生）

私はUWMでのコースに参加するにあたり、海外の研究者の方々から英語で実験を教えていただきながら、同じ分野の研究者の方がどのように実験を進めているのかを学びたいという思いで旅立った。

LS期間中の講義ではUWMの先生方だけでなく、北海道大学から参加した先生方の講義も英語で聞き、とても勉強になった。また、フィールドワークでは大学近くの川へサンプリングに出ることがあり、様々な水生生物に加えて、本でしか見たことがなかったプラナリアを見ることができて大変興奮した。

実験では日本とポーランドの学生それぞれ2人ずつからなるグループに分かれ、2つのテーマの実験を行った。私のグループはヨーロッパのコイヤシマドジョウを材料に、細胞遺伝学的手法を用いた系統判別や、初期胚発生における遺伝子発現解析に挑戦した。実験内容について英語で話し合いながら進めていくのは大変だったが、なんとかやり遂げることができた。初めての実験手法にも触れることができ、今後自分の研究を進めていくにあたり、とてもよい経験ができた。実験は日によって夜までかかることもあったが、待ち時間にコーヒーやクッキーをいただきながら、お互いの国の食生活について話をしたり、簡単な言葉を教え合ったりするのもまた楽しい時間だった（写真4）。この時間があったからこそ、グループのメンバーとすぐに打ち解けることができた。そして最終日のプレゼンテーションに向けて、準備時間が少ない中で発表の流れなどを話し合い、実験の指導をしてくださった先生方からもアドバイスをいただきながら、発表直前まで準備と練習を行った（写真5）。



週末にはポーランド南部の都市クラクフを訪れ、2泊3日の日程で世界遺産に登録されているヴィエリチカ岩塩坑や、かつて王宮としても使用されたヴァヴェル城を見学した。ヴィエリチカ岩塩坑の坑道見学ツアーは、地下130メートルほどの深さまで400段近い階段を下ることから始まった。岩塩を削り出して描かれた壁画や、礼拝堂などを見ながら3時間以上かけて歩いた坑道は、全長のおよそ3%にも満たないというのが驚きである。またクラクフではポーランドの学生を含めた4人部屋に宿泊した。就寝前、各々のベッドに横になりながら語り合ったことも修学旅行のようで、異国の方ではないような不思議な時間だった。

LS期間中には、The Olsztyn's Daysというイベントがあり、2日間に渡って日本の文化を市民の方々や子供たちに発表する機会をいただいた。会場は予想よりも広く、連日100名ほどが集まつた。日本を紹介するプレゼンテーションの後、一緒に折り紙でかぶとと鶴を作り、日本文化を体験してもらった（写真6）。日本から持参した筆と墨を使った書道体験は中でも好評で、メッセージを漢字で書いてほしいというリクエストも多かった。このときはポーランドの学生に我々が話す英語をポーランド語に翻訳してもらいながら発表を進めた。お互いのチームワークが發揮されてこのイベントの成功だった。

2週間のコースは修了証の授与をもって終了した。同じグループのメンバーとはほとんどの時間を一緒に過ごし、ポーランドに新たな友人ができたことが一番の思い出である。また、今回の滞在では自分たちで食事の準備や日用品の調達まで行う必要があり、どのように生活するか工夫しながら過ごす2週間はとても有意義で、現地での生活を濃密に体験することができた。海外の研究者と協力して実験を行うこと以外にも日本文化の紹介、観光、日常生活も含めて盛り沢山な内容で、そこから得られたものは想像以上だった。

卒業生登録システム《@Frontier》にご登録ください。

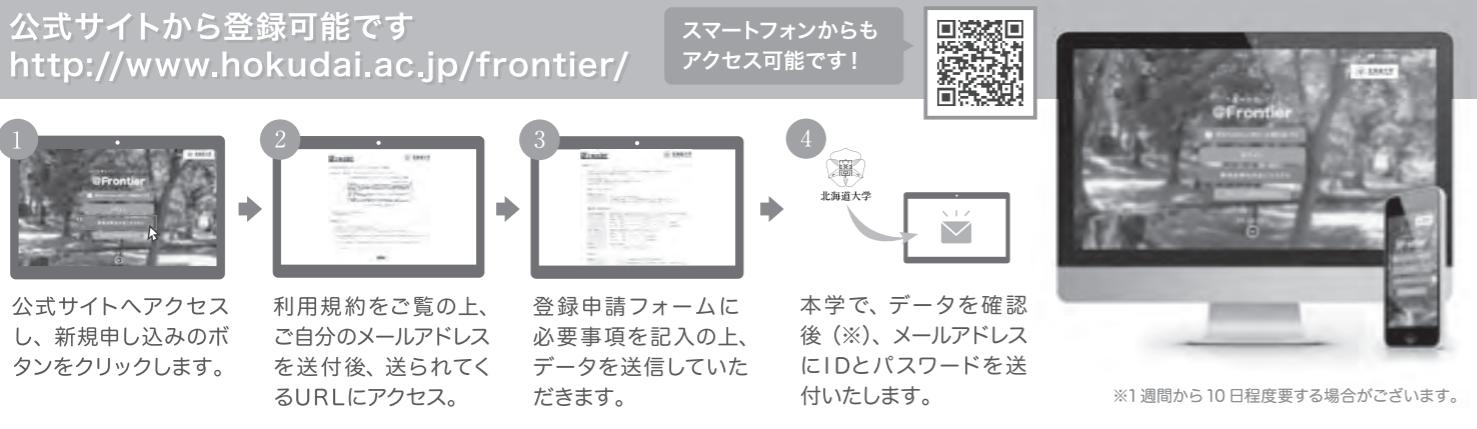


hokudai.ac.jp

生涯無料

公式サイトから登録可能です

<http://www.hokudai.ac.jp/frontier/>



北大との絆をつなぐ一枚

UCカード株式会社
北海道大学カード

三井住友カード株式会社
北海道大学カード

申込み

UCカード専用ページから申込む

UCカードサイト
新しくカードを作る
UCカード一覧
北海道大学カード

<https://www2.uccard.co.jp/card/lineup/hokudai.html>

三井住友専用ページから申込む

三井住友カードサイト
カードをつくる
カード一覧
北海道大学カード

<https://www.smbc-card.com/nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp>

お問い合わせ先

北海道大学総務企画部広報課 電話：011-706-2012/2072 kouhou2@jimu.hokudai.ac.jp	北海道大学校友会エルム 電話：011-706-2101/2102 kouyukai@general.hokudai.ac.jp
---	---

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

齊藤 誠一 氏(昭50ギ) Wooster Award 受賞

綿貫 豊(特別会員)

齊藤誠一特任教授(北極域研究センター長・水産科学研究院兼任)が2016年11月7日San Diegoで開催のPICES(北太平洋海洋研究機構)国際会議でWooster Awardを受賞されました。この賞は、北太平洋の海洋科学分野において、研究・教育・管理運営に重要な貢献をした個人に毎年与えられるものです。齊藤先生は、水産海洋学研究の社会実証として、漁業者への水産海洋情報サービスなど社会貢献をおこなったこと、気候変動研究を亜寒帯域から北極海域まで広げたこと、年次総会において多くの指導学生や研究員の発表が表彰を受け、若手研究者のPICESへの参加を促進する教育的貢献をおこなったこと、PICESやESSASの各種委員会の共同議長などをつとめこれらの組織の発展に貢献したことが評価されました。受賞をこころからお祝い申し上げます。

CONGRATULATIONS ON WINNING

株式会社
竹田食品

代表取締役 竹田寿広

食卓に函館の味を

本社工場 函館市浅野町3番10号
TEL (0138) 43-1110(代) FAX (0138) 43-1113

札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号(水産保冷配送センター3F)
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売㈱ 東京都中央区築地7丁目5番3号(紀文第一ビル2階)
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売㈱ 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号(日宝ビル5階3号室)
TEL (022) 772-1970 FAX (022) 772-1987

竹田食品販売㈱ 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号(NLCセントラルビル5階)
TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358

HACCP

松の前

9

各種行事開催報告

北海道大学 ホームカミングデー2016 水産学部卒業生の集い

高木 力(平元ギ)

平成28年9月24日(土)に北海道大学学術交流会館第一会議室において、「北海道大学ホームカミングデー2016 水産学部卒業生の集い」が行われました。講師として水産学部卒業生で大阪海遊館館長の西田清徳氏(昭57ゾ)をお招きしご講演いただく予定でしたが、直前に体調を崩されたことから予定を変更し、本学水産学部の荒井克俊教授(昭51ゾ)による「なぜ北大には水産学部があるのか?!~札幌農学校における水産学事始めから、北海道大学の持続可能性水産科学へ向けて~」と題した一般講演会が開催されました。講演会には現役の学部学生と卒業生を含めおよそ50名の方が来場され、講演に先立ち安井 肇研究院長と北水同窓会横山清会長からご挨拶を頂きました。講演内容の変更により出席した現役学生には当初戸惑う様子もありましたが、荒井教授によるわかりやすく語られる水産学部の歴史や先人達の逸話に出席者は次第にその



講演会場の様子



安井研究院長のご挨拶



横山北水同窓会会長のご挨拶



講演中の荒井教授

追悼寄稿



北出 弘氏(昭52ギ) を偲ぶ

佐々木 雅人(昭56化)

北出弘先輩は、平成29年1月2日に61歳でご逝去されました。

あまりに早いお別れでした、謹んで哀悼の意を表します。

大阪府出身、昭和52年漁業学科を卒業後、民間企業を経て同年7月大阪府に採用されました。

府庁では、水産行政を中心、農林水産物の流通対策、大阪湾の環境保全などの業務を担当されました。特に関西空港設立に関しては大阪府より出向、持ち前の飘々とした人柄の中にも一度確約した事は何があっても守りとおす姿勢は、漁業関係者との間に独特の信頼関係を培い、山積する難問を次々と処置され、円滑な運営に多大の成果を残されました。

平成27年に水産課長として大阪府を退職され、大阪府内水面漁場管理委員会会長として今後の活躍が望まれていました。

私生活では、山登り、スキー、旅行、飲み会をこよなく愛し、「おしゃろ丸(V世)」の寄港には度々訪船し、昨年約30年ぶりに大阪港に寄港したときは、夜通し車を飛ばし訪れたときの笑顔は今でも目に浮かびます。

退職後は、高校時代の同級生である奥様と旅行に行ったり、同窓会に出席することを一番の楽しみにされていました。

病気が見つかり治療入院などが始まり、それら

が、かなわなくなるということが残念そうでした。

明るく楽しく豪放磊落、それでいて冷静で緻密な判断力を持ち、その知恵、見識は仕事はもちろんのこと、あらゆる場で発揮され、活躍されていました。

何より、人と人の繋がりを大事にし、彼の頭の中では一度聞いた人間関係は全く忘れることなく緻密に繋がり、それを元に自然と周りが繋がっていくそんな特異な才能の持ち主でもありました。

通夜には、高校時代の友人、大学の同級生をはじめあらゆる年代の方々が駆け付け、故人を偲んで、大いに語り合いました。

病気がわかって以来、大好きなお酒を一滴も口にされなかったとかで、末期の水は奥様とご令嬢が涙ながらにウイスキー「余市」で唇を湿らせておられました。

出棺時には、同窓生で「都ぞ弥生」でお見送りを致しました。

いつもなら彼がリードして楽しいはずの寮歌も、涙で途切れがちな、今までに無い悲しい別離の歌でした。

生前あなたにしていたい、多くのことにあらため感謝しています。

「ほな、また!」と去って行かれましたが、今でもヒヨコッとどこからか帰ってきそうな気がします。

合掌

第21回 臥洋会 (昭和36年卒同期会)開催報告

角田 靖雄(昭36セ)

今年度は『富士山麓の旅』という事で10月30日(日)、同期の仲間が集まった。数日前の26日に富士山が遅い初冠雪を記録した事が報じられていた。しかも、NHKの『プラタモリ』が10月15日から3週にわたりて土曜日、『富士山』を取り上げた。しかも、樹海の案内役が吉田充宏さん(H4理学部卒、元ヨット部部長)という後輩であり、私たちも詳しい知識を得ることができ、そのため、この同期会のタイミングの良さに幹事の石川君に感謝すると共に期待感も増した。

午前11時 東京駅前を貸し切りバスで出発、14時『忍野八海』に到着、曇っていたため残念ながら富士山は姿を隠していた。澄んだ名水よりも中国人観光客の多さに驚かされた。そして、日が暮れない内に山中湖畔にある『レークサイド山中湖』に到着。18時から浅倉君の司会で宴を開始、幹事石川君の挨拶の後、物故者3名に黙祷、佐藤(秀)君の発声で乾杯の後、スタートした。かつての酒豪も今や紳士となってしまったが、全体として盛り上がり歳を忘れる程であった。そして、和田君の発声で、恒例の『都ぞ弥生』、と『北晨寮逍遙歌』を高らかに齊唱した。参加者が意外に歌詞を忘れていない事に感心した。場所を変えて二次会に入ったが、少人数のためか例年に比し会話は弾んだ。ただ、その内容は病気体験など健康に関する話が8割を占め、あとは豊洲市場問題であった。そして22時、泥酔者も無く全員が大人しく眠りについた。

31日(月)の朝、朝風呂に入るため早起きした連中が歓声をあげ、数人がカメラを取り出し絶景ポイントを目指した。それは浴槽のガラス前に朝日を浴びた綺麗な富士山が大きく出現したからである。まるで『これで宜しいのでしょうか』と私たちに語りかけているような雄大な姿であった。一同、絶句、普段の行いの良さを感じるやら、凄い幸運に感謝した。以降、紅葉と青空の中を富士山の五合目に向ったが、ここでも富士山は暖かく迎えてくれ、世界遺産富士山を十分味わうことができた。その後、河口湖を経由し16時、無事帰京した。

ただ、石川幹事は参加者が15名(札幌2、函館1、宮城1、大阪1、関東10)と少なかったことに、かなり落ち込んでいた。大規模同期会を開催して以来、60名の参加を続け、最近2~3年は25名前後で推移していたが、今年、極端に減少した。卒業後56年を経過、一番若い人でも77歳、後はそれ以上の年齢である。志しはあっても参加できない条件が迫ってきているのは確かである。私などはよくぞ15名も集まつたものという感じである。そこで、今後について宴の前に参加者全員に相談した所、バスやホテルを借り切るような大規模な同期会は今回の21回目で終了する事に決定、来年からは『函館の湯の川』と決め、全国からそれぞれがそれぞれの方法で参加する方式とした。なお、昨年に続き『親潮』に掲載をお願いしたのは、この実情が後輩の方々にも参考になるかと思ったからである。

第3回 昭和44年卒北水漁業学科同期会

伊藤 勤男(昭44ギ)



左側前から 広瀬、田中、谷口、大場、阿部
右側前から 伊藤、中島、横野、雨谷

10月22日、札幌の居酒屋で同期会を行いました。

この会は4年前より始まり、1年おきに実施し3回目です。案内に対しては今回も25名のほとんどから返事をもらえたのだが、まだ現役で頑張って仕事をしていました、体調や諸事情などで参加できないものもいて、今回は写真の9名の参加でした。

4年前の最初、札幌での時は14名、前回の函館湯の

川では9名でした。二ヵ月に一度くらいの割合で近況など19名にはメールで流したり、かなり前から日程を伝えたり、毎回手製の配布資料の作成などしているが、もっと集まれるよう工夫したいと思います。

毎回投稿しているので今回は簡単に報告したいと思います。

発起人である鹿児島の市川君が急に来れなくなつたが、関西から広瀬君と谷口君、関東から大場君と横野君が参加してくれました。

宴会はこじんまりとした集まりで堅苦しいこともなく、近況報告など賑やかに歓談、短い時間でしたが、お互い元気なことを確かめ合い楽しい一時を過ごせました。

同期の半数が道外の在住であり、次回の開催地については道内でやるか道外でやるか、希望のアンケートを取ろうと思っています。多数の参加を図るためにも。

Feed Forward! 第三回「漁火会」開催報告

吉田 康祐(昭44化)



居酒屋「よしの」にて 前列左より：伊藤、中山、三浦、小城
後列左より：安村、飯野、吉田

「そろそろ三回目をやろうか！」漁火会(北水柔道部親睦会)幹事伊藤と食事しながら決めたのは、まだ雪深い2月の北大正門前カフェテラスの中でした。

前回函館で実施してからすでに二年たっており、特に今回は以前より計画していた我々北水柔道部の恩師河野辰五郎先生のお墓参りもこの機会にと、函館で8

月末実施を決定いたしました。場所も創業30年を迎えた会員飯野様の居酒屋「よしの」に、再びお世話になる事と致しました。

その日8月27日は、我々の日頃の精進のたまものか？台風到来情報の中、市内は雲ひとつない青空が広がり、参加7名を暖かく迎えてくれました。正直新幹線の開通等で、かなり街が変わったのではとの懸念がありましたが、昔変わらぬ哀愁と郷愁の街に心洗われほつとした次第です。

宴会の前、先生のお墓参りで電停「谷地頭前」に3時に集まつたのは中山、小城、伊藤、吉田の4名。再会を喜びながら立待岬に繋がる坂道をたどった先に先生のお墓は、大森浜を望む高台にひっそりと佇んでおりました。お花を添えお墓を清めひとしきり思い出話に花を咲かせました。

名残惜しくお墓を後にし、約束の5時には場所を万代町に移し久しぶりの再会を喜びました。この日を待つて集まつたのは、遠く関西からも含め総勢7名のかつての北水柔道部の猛者達！式は、ご逝去された恩師河野先生、同窓軽部様、安部様のご冥福を祈り黙祷の後、久しぶりに安村様の前口上で懐かしい「水産放浪歌」を声高らかに歌い、心温まる会をスタートさせました。

飯野様入魂のお料理と美酒を重ねて、学生時代にもどり時間を忘れての宴となりました。また、今回は諸行事がぶつかり少ない人数でしたが、その分一人一人じっくり話し合いました。

談論風発する中で大いに盛り上がった事は!!

①健康と体力の衰えを嘆く仲間が多かった事。でも元気印のお二人に一同羨望！安村氏は全国をウォーキング！本日も函館ツーダーマーチを完歩。三浦氏は近く韓国でレース、大沼一周レース挑戦とか！

②年代から言ってもあらかた第一線をリタイヤされてますが、まだまだ第一線で活躍の仲間が多い事。小城氏はバリバリ現役で世界をまたに専門分野の研究で活躍中。北方四島訪問もかかえ忙しい日々とのことでした。中山様は会社顧問として奔走、伊藤氏は朝早くからお店で奮闘中！

③創業してはや半世紀！皆大なり小なりの人生ドラマをかかえ高度成長経済の一端を支え子供の教育、



立待岬で、恩師河野先生お墓の前で

親の介護と、ま一氣の休まる暇がなかった半面、多くの人に支えられ幸福だった事。

④皆、この歳になって、しみじみ函館の良さを実感できた事。古い歴史と建物が大切に残され、あちこちに人情の温みが感じられるこんな街はもう残り少なくなりました。新幹線の走る時代ですが、今や連絡船、北洋漁業、大門の隆盛は無くとも、これだけは大切にして欲しいと。

⑤皆思いもかけぬ場所で人の絆が感じられる時がある事。ふとしたきっかけで知った方が同窓の娘様であったり、沖縄戦で戦没した碑に刻まれた自分の親戚の近くに同窓の方の関係者の方のお名前が書かれている事が判明したり、この世は広いようで実は繋がっている事を実感。

⑥遅ればせながら歳をとて初めて学問の深さ広さ大切さを知り、セミナー等に通っている事。(幹事吉田もその一人。いまさら学生時代にもっと勉強してればと懺悔!)

尽きぬ話の中で大爆笑の学生時代の秘話も暴露され、ふと時計をみると何ともう10時!同窓のお店で貸切の幸運にも恵まれ、深夜の万代町にも響き渡れと?ひさしぶりに水産学部伝統の「おす」を昔に返って腹の底からやりました。締めは「都ぞ弥生」を二番まで声高らかに齊唱し、ほろ酔いで外に出れば万代の港に灯りのうるむイカ釣り船、遠くに函館山の灯がまた来いよとまたたいておりました。名残つきぬ中、来年札幌で再会する事を約束し散会と致しました。

※なお表題の「FEED FORWARD」(過去を振り返るより明日と未来を向こうぜ!)は、会終了後に同窓の小

城様から幹事宛に送られてきた手紙の中にあった珠玉の一語!何か今回の会を象徴する胸にしみわたる名言に感じられ、使わせていただきました。

同窓会報告(長崎支部)

渡邊 康憲(昭51化)



後列左より：北里海雄(昭61ゾ)、玄浩一郎(平元ゾ)、川内洋平(平21シ)、星野浩一(平元ゾ)、山道 敦(平9ギ)、谷内大翔(平26海生)、長江真樹(平3ゾ)、中列左より：藤野(広瀬) 美由紀(平14シ)、藤田伸二(昭55修ギ)、盛田祐加(平12生科)、征矢野 清(昭61ゾ)、前列左より：藤野忠敬(平19博生科)、渡邊康憲(昭51化)、市川 寿(平元博化)、河邊 玲(平6ギ)

長崎県は全国有数の水産県でかつては県内の企業で活躍される先輩が多数おられました。しかし時代が変わり新人の加入が少なくなり一時は会の存続が危惧されるほどでした。それでも少人数ながら現在も毎年一回支部会を開き、会員間の交流を深めています。会員構成は以前に較べると大学や地方自治体、水産研究所職員など公務員的職域の方の割合が多くなっています。

さて、暑かった夏がようやくおさまった10月1日、長崎市岩川町の割烹ひぐちで北水同窓会長崎支部会が開かれました。会は星野浩一幹事長(平元ゾ)の開会宣言、渡邊康憲(昭51化)の支部長挨拶のあと長江真樹(平3ゾ)会計幹事から会計報告とともに欠席会員からのメッセージ・近況紹介、転出・移動会員報告並びに住所不明会員の照会が行われました。その後懇親会に移り、乾杯の後、懇談、その中で出席会員からそれぞれの自己紹介が行われました。この他、話題提供とし

て星野幹事長から昨年12月北海道新聞社から刊行された「戦後70年 忘れ得ぬ戦禍」に掲載されている「おしょろ丸奇跡の避難」記事の紹介がありました。この記事は函館在住の元北大水産学部医務室職員鵜沼わかさんに送って戴いたものです。鵜沼さんからはクラーク博士没後130年を記念して有志5人で墓参に行かれた際の「2015年5月ボストン旅行記」[加藤秀男(昭52ギ)編集]の情報も頂戴しました。余談ですが、北大のシンボルクラーク博士は札幌農学校で教鞭を終え日本を去る140年ほど前、長崎へも立ち寄りその美しさを絶賛する手紙を妻宛に送られたとのことです*。このことはあまり知られていないようですが同窓の皆さんには長崎と北大との係わりを示すエピソードとして記憶に留めて頂きたいと思います。

その後、藤田伸二(昭55修ギ)会員の音頭による締めの乾杯の後、皆で肩を組み、征矢野清(昭61ゾ)会員の前口上で「都ぞ弥生」、河邊玲会員(平6ギ)の前口上で「水産放浪歌」を合唱し、最後に記念写真を撮りました。今年の出席者は15名でしたが昭和の卒業生は4名、平成の卒業生が11名となり、若返りが大きく進みました。世代を越え楽しく交流が進んだことは大きな収穫であり、会の発展と来年の再会を約して閉会となりました。会員の皆様には来年も誘い合わせの上、多数のご参加を期待しています。

*ジョン・エム・マキ 著 高久真一 訳 「W. S. クラーク その栄光と挫折」北海道大学出版会(1978)

北水同窓会大阪府支部 平成28年度総会・講演会・懇親会報告

佐々木 雅人(昭56化)



平成28年11月26日(土)3時30分より中之島センタービル31階のうおまん中之島店において2年に1回の総会・講演会・懇親会が開催されました。出席者は関西同窓会様、関西エルム会様、北水同窓会愛知県支部様、札幌農学同窓会関西支部様、北海道大阪事務所様、他学部卒業生の方など来賓・お客様11名、講演者1名、支部同窓生37名と総計49名の参加を得て開催されました。大村副支部長の司会により総会が始まり、田中支部長の挨拶の後、植松北大関西同窓会会长から祝辞をいただきました。事業報告・計画では札幌農学同窓

会、北大関西同窓会との共催で実施の市民公開フォーラム、29年前に北水同窓会大阪府支部復活のきっかけとなった「おしょろ丸IV世」以来の寄港となる「おしょろ丸V世」の大阪港寄港が平成27年7月にあり、歓迎会(内覧会)を開催したところ98名の出席を得たこと、平成28年に新たに「祝卒業・新社会人歓迎会」「北大進学相談会・懇親会」等若い方、本学との連携を強める行事を行ったことが報告され、今後も継続して開催することとなりました。毎月第3土曜日5時から北大会館で開催している月例会は支部運営のため有効活用して

いくこと等報告され、各議案はすべて承認されました。役員改選では新支部長として佐々木雅人(昭56化)が選任。新たな役員は、顧問に田中文夫氏(昭50食)、大村泰治氏(昭51食)、北出弘氏(昭52ギ)を、副支部長に吉村直孝氏(平3ゾ)、事務局長に藤原匠逸氏(平13ギ)、副事務局長に若林真由氏(平5食修)が選任されました。

講演会では、北海道大学水産科学研究院教授の荒井克俊様(昭51ゾ)に「水産における hybrid の時代」の講演をいただきハイブリッドの研究について水産学部の歴史から始まり、なぜハイブリッド研究に注目し、またどのように研究が進んできたのかについて、興味深くもわかりやすい講演をいただきました。

終了後恒例の記念撮影後、懇親会となり入江顧問(昭45ギ)の乾杯の発声で懇親会が始まり、来賓の方に祝辞をいただき、また幅広く各年代の方による近況報告とともに、各テーブルでは同年代同志など楽しく語り合い盛り上がったひとときを過ごすことができました。最後に「水産放浪歌」「都ぞ弥生」を参加者全員で肩を組み熱唱し、再会を約してお開きとなりました。

総会の開催にあたり、準備運営に尽力いただいた同窓の皆様に感謝いたします。

■来賓の方(祝辞をいただく)

北海道大学関西同窓会会長 植松 高志(昭48法)
北海道大学関西エルム会代表理事 伊藤 靖久(昭42工)
札幌農学同窓会関西支部長 和田 武夫(昭40農)
北水同窓会愛知県支部顧問 深谷 勲(昭36セ)
北海道事務所大阪事務所長 伊藤 雅実

■講演者

北海道大学水産科学研究院教授(北水同窓会幹事長)
荒井 克俊(昭51ゾ)

■お客様(他学部卒業生)

間中 俊夫(昭37工) 天知 輝夫(昭38農)
福井 昭男(昭40理) 前田 直臣(昭43理)
三津 正人(昭45農) 岩堀 隆(平16農)

■大阪府支部会員

川岸正治郎(昭34ギ) 大野 正浩(昭36セ)
吉川 圭一(昭44工) 米谷 孝治(昭44セ)

入江 和彦(昭45ギ)	上田 稔(昭45化)
久保田幸一(昭45化)	江島 新(昭46化)
西川 一義(昭46ゾ)	山仲 春男(昭46食)
島田 好彦(昭47ギ)	岡本 洋一(昭48ギ)
富田 整(昭48化)	藤田 信良(昭48ギ)
田中 文夫(昭50食)	中川 武司(昭50ギ)
室井 智子(昭50食)	大村 泰治(昭51食)
玉置 純(昭51ギ)	中進 作(昭53化)
大橋 人司(昭56ギ)	尾坂滝太郎(昭56ギ)
佐々木雅人(昭56化)	中田 邦彦(昭61食)
藤井 英嘉(昭61ギ)	松谷隆昭(平2ギ)
川邊 一郎(平3ゾ)	吉村 直孝(平3ゾ)
小田 哲也(平4ギ)	嶋本 晶文(平4化)
高木 昌彦(平4ギ)	藤原 匠逸(平13生)
中村 拓真(平15シ)	宇野 陽子(平17生)
占部 正悟(平17資)	山中 智之(平19生)
陳 天燕(平28修増生)	

北水同窓会富山県支部総会

渡辺 健(昭59ギ)



前列左より

岡崎俊彦(昭45ギ)、宮崎謹(昭41セ)、木島登(昭33遠)
宮崎統五(昭48ゾ)、内山勇(昭53ギ)

中列左より

山崎裕治(平5ゾ)、浜井昌志(昭62食)、野沢理哉(昭53ギ)
渡辺健(昭59ギ)

後列左より

大黒徹(昭62食)、福西悠一(平16生)、南條暢聰(平12生)
水田圭一(平16資)、町敬介(平20生)
吉倉桂三(旧姓 家出)(平7ギ) 藤島裕典(平11資)
松村航(平4ゾ)、大場隆史(平11生)

北水同窓会富山県支部総会が、平成28年7月9日(土)に富山市内で開催されました。

富山県支部総会は実に6年ぶりの開催となりましたが、支部会員の約半数となる18名に参加をいただきました。出席者中最年長の木島先輩(昭33遠)から最年少の町君(平20生)まで、幅広い世代の同窓が集いました。

総会は宮崎護支部長(昭41セ)の挨拶で始まり、事務局からの欠席会員の近況報告、役員改選(新支部長に川崎賢一氏(昭42セ)を選出)を経て、懇親会へと移りました。

懇親会は、宮崎支部長の乾杯の発声ではじまり、会員の自己紹介を交えながら終始なごやかな雰囲気のなか進行しました。中締めでは、全員が肩を組み、岡崎先輩(昭45ギ)の前口上で「都ぞ弥生」1番2番を大合唱し、北水エールで無事閉会となりました。

会計担当の美野さやか助教の御来賓をいただきました。

初めにこれまでの物故者の皆様に哀悼の意を表して一分間の黙祷をささげました。

総会では落合時三郎支部長(昭49ギ)の挨拶があり、県内の水産業の現状や同窓生の各方面での活躍ぶりについて話をされ、又、80周年記念総会を行うことになった経緯などについて、説明がありました。

つづいて御来賓の足立教授より挨拶があり、お祝いの言葉とともに同窓会本部幹事長からの挨拶を代読されました。

その後、事務局から平成二十七年度の収支決算報告が行われ、その他の議案も含めすべて了承されました。

総会終了後には、昨年より開催されている同窓生によるミニ講演会が行われました。

今回は北川大二氏(昭49ギ)から「水生生物のデータベース」の演題で御講義をいただきました。

ここで暫時休憩に入り、松島の眺望を愛でながら露天風呂で汗を流した後、着替えて懇親会会場に移動しました。

懇親会では、佐藤秀雄幹事長(昭42ギ)の乾杯の音頭で開会となりました。

その後、例年通り各出席者の近況報告が行われましたが、今回は昭和24年卒の大先輩から平成26年卒の若い女性まで、幅広い年代の同窓生が参加してくれたお陰で皆さん真摯に耳を傾けていたように思いました。

最後に阿部拓三氏(平11ギ)の前口上で「都ぞ弥生」と「水産逍遙歌」を全員肩組んで歌い、来年度の再会を約束し散会となりました。

が、その後の2次会にはほとんどの方が残られ、カラオケに談笑にと大盛会となりました。

このように成功裡に記念総会が終了したことは皆さんのご協力の賜物と思います。

とりわけ足立教授と美野助教のお二方と同窓会本部のご協力に対し、紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

北水同窓会宮城県支部 80周年記念総会及び懇親会

稻田 真一(平15海)



北水同窓会宮城県支部80周年記念総会及び懇親会が十一月二十六日(土)にホテル松島大観荘(松島町)において開催されました。北水同窓会宮城県支部は今年で創設80年を迎えました。

今年の支部総会はこの節目の年を祝して、十一月二十六日に日本三景、松島の地において「記念総会」として開催されました。

同窓会本部からは副幹事長の足立伸次教授、及び

寄稿

ラグビー部OB会第4回(闘魚会) 東日本大震災被災地・気仙沼にて開催

西川 和夫(昭44食)



後列左より

酒井(熊谷育美プロデューサー)、西川(昭44食)、米谷(昭44食)、里館(昭45食)、三宅(昭46ギ)、吉原(昭46ギ)、木谷(昭46ギ)

安藤(昭48ギ)、檜山(昭48ギ)

中列左より

刑部(昭45ギ)、片山(昭44遠ギ)、菅原(昭45ギ)、久保田(昭45化)、室(昭45ギ)、柄木田(昭45化)、木村(旧中泉)(昭45ゾ)、千葉(昭46ゾ)

前列左より

岩田(昭44食)、柴田(昭44ギ)、斎藤(昭43ギ)、シンガーソングライター熊谷育美さん、伊興田先生(つくば大名誉教授)、小平(昭42遠ギ)、

武川(昭42遠ギ)、小田島(昭43ギ)、木村(昭43ギ)

——当時の主将

昨年(H.28)の10/1(土)宮城県気仙沼市・ホテル景閣にて第4回闘魚会(ラグビー部OB会)が行われました。

「闘魚会」とは、S.43~46卒(4年間)のラグビー部OBのことです(会員40名)。

2年毎に開催しております。全国各地に散らばっているOBの方に地元幹事をお願いして開催しています(今年は気仙沼在住の千葉さん(昭46ゾ)が頑張ってくれました)。

今回は「特別な思い」で東日本大震災の被災地・気

仙沼市で行う事にしました。既に東日本大震災より6年(2000日以上)が経とうとしております。

(発生当時の状況)

- ①H.23(2011).3.11午後2時46分発生。
- ②震源地:三陸沖(深さ24km)。
- ③マグニチュード9.0。
- ④津波・最大波高9.3m以上(気象庁から)

(気仙沼の一部地域では、最大20mを記録

しました)

⑤最大震度:7…宮城県栗原市。

⑥死者1万5,894人

行方不明2,558人(合計1万8,452人)
(28.6/10現在警察庁から)

⑦現在の避難者数14万7,772人
(28.7/14現在、復興庁から)

気仙沼市の震度…赤岩6弱

[余震] M7以上6回

M6以上93回

M5以上560回

(今までの累計回数659回)

①亡くなった人1,031名～関連死108～行方不明
220名(合計1,359名)

②住宅被災:15,815棟

③被災世帯:約9,500世帯(35.7%)

④石油タンク破損・流出→石油に引火→焼失面積:2.48km²(市域面積の0.7% = 東京ドーム52個分)

⑤地盤沈下…74cm

⑥浸水面積:18.65km²(5.6%)

⑦避難場所:最大105箇所(20,086人避難)

⑧応急仮設住宅:93団地(3,503戸)

⑨当時人口:73,000人→現在66,000人
(7,000人減・10%減)

⑩宮城県では、未だに3万5,000人が仮設住宅暮らしです。

現地を訪れて、「復興は、まだまだ道半ば」とつくづく感じました。

今回の最大の目的は、被災した仲間のOBも二人おりますが、被災地で開催することにより少しでも支援になればという思いで開催しました。

※ラグビー精神…One.for.all.All.for.all(一人はみんなの為にみんなは一人の為に)

(OB会の会場は宿泊も含めて、被災したホテル「一景

閣」にしました)。

被災地支援に賛同した仲間のOB25名が全国各地より気仙沼に集合してくれました(北海道赤平市、札幌市、岩手県北上市、宮城県気仙沼市、仙台市、新潟県佐渡市、長野県塩尻市、栃木県足利市、埼玉県春日部市、上尾市、岩槻市、越谷市、東松島市、千葉県栄町、茨城県利根町、つくば市、東京都府中市、江東区、横浜市、京都市、京都府宇治市、大阪市、大阪府豊中市、広島県尾道市)。

また、最近ジャカルタより帰国したS.42遠卒の小平さんと同じ42遠卒の武川さん、48漁卒のOB2人(安藤・檜山さん)にも出席してもらいました。

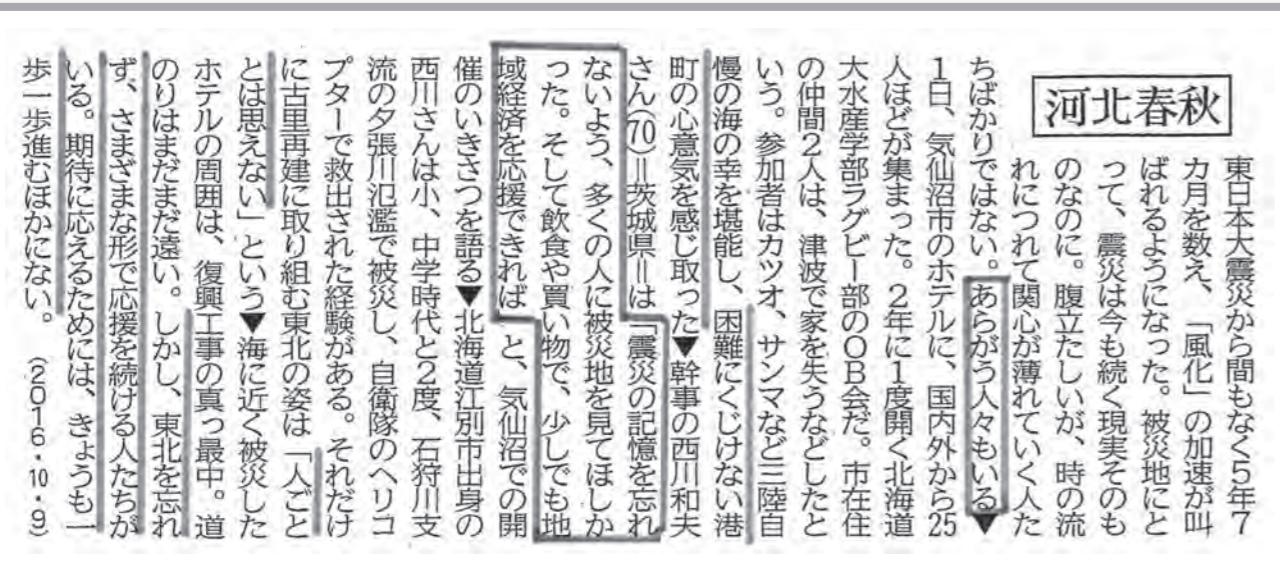
そして、特別ゲストとして、伊興田先生(つくば大名誉教授)にも出席していただきました。

伊興田先生は、北海道留辺蘂町出身(るべしべ)。東京教育大卒(現つくば大)で、現在に至るまでラグビーの指導者としてご活躍されております。S.47年より、体育の先生として水産学部に赴任して来られ、10年間に渡り体育の教官として、またラグビー部の指導もしていただきました。先生にはラグビー部OBに対し現在に至るまで、温かく見守っていただいております。感謝致します。

尚、当日は特別ゲストとして、出身地・気仙沼を拠点に震災応援を含め、「世界にむけて」地道に音楽活動をしているシンガーソングライターの【熊谷育美】さん



寄稿



●2016年(平成28年)10月9日(日) 河北新報記事抜粋(転載許可済)

が我々の趣旨に賛同していただき、ミニライブを開催してもらいました。
(代表曲:「雲の遙か」他6曲を30分に渡って歌唱してもらいました)

- ①当日はテレビの取材もあり10/7に「闘魚会」の模様が放送されました(気仙沼ケーブルネット…NHK系列)。
- ②また新聞社の取材もあり、10/9と10/22に記事として取り上げてもらいました(河北新報;本社仙台市)。

宴会は、斎藤会長(昭43ギ)の挨拶に始まり、小平さんの乾杯の音頭で宴会はスタートしました。2年振りに再会した仲間、卒業以来初めて出席したOBなど和気あいあいの雰囲気で進みましたが、何と言っても【健康】で再会し、会えた事が何よりも思いました。

宴会の終わりには、学生時代、ラグビー部の宴会の最後に必ず歌った「水産放浪歌」を安藤さん(昭48ギ)の序言葉で始まり、全員、肩を組ながらあつたけの大聲で歌いました。次に、明治45年度、北大恵殖寮歌「都ぞ弥生」を小生の序言葉で始まり全員で合唱し、締めくくりました。

二次会は、被災した飲食店・他(52軒)が集まっている「南町紫市場」に行きました。ほとんど全員が二次会に流れ、いつの間にかスナックは貸し切り状態になりました(普段は閑散としているという話も聞きました)。ここでも、お互い、久しぶりの再会に昔話や近況に花が咲き、また、ほとんど全員が次から次へと歌つて多いに盛り上りました。更に三次会に行ったOBもおりました。

皆さん、それぞれシャークミュージアム(気仙沼はカヒレの町として有名です)他で多数買い物して帰りました。

*尚、観光コースにはありませんが、「安波山」(標高239m)に上りますと気仙沼市内が一望できます。
気仙沼に訪れた際は是非上る事をお勧めします。

東日本大震災の事は次第に風化しつつあります。しかしながら、宮城県内には、仮設住宅暮らしの人々が、いまだに35000人もおります。「この現実を忘れてはならないと思います。」一度、被災地を訪れて欲しいと言う仮設暮らしのタクシー運転手さんの話が「強く」耳に残りました。卒業生の皆様も、旅行する際

は是非、東日本大震災の被災地を一度訪れてはどうかと思います。見ると聞くでは大違います。

最後に被災地の一つとして、フカヒレの町「気仙沼」を推薦します。リラックス式海岸の美しい町です。

今後「闘魚会」の予定としては、2年後(H.30).佐渡島(幹事:木村さん)、4年後(H.32).尾道市(幹事:柴田さん)で開催される事が決まっております。

**北大水産学部ラグビー部
熱い闘志で
被災地支援
気仙沼でOBが会合**

北海道大水産学部ラグビー部の1968~71年卒業でつくるOB会闘魚会が1日、気仙沼市のホテル一景閣で会合を開いた。2年に1度の開催で、今回は東日本大震災被災地の実情に触れて宿泊や飲食、買い物などで支援しようと気仙沼を訪れた。

闘魚会は会員40人。国内外から25人が集まつた。メンバーのうち、気仙沼市の2人は津波で家などを流されたという。

幹事長の西川和夫さんは「(70)茨城県は『震災の風化が言われるが、復興はまだ」と伝え、さきやかだが地域経済に貢献したかつた」と、経緯を語った。



被災地の実情に触れて、飲食などで応援しようと会合を開いた闘魚会のメンバーたち

まだ。被災地を忘れていないと伝え、さきやかだが地域経済に貢献したかつた」と、経緯を語った。

マ、サメの心臓など地元自慢の海の幸が並び、参加者

海に近く被災したホテルでの会合はカツオやサンマ、サメの心臓など地元自慢の海の幸が並び、参加者は、困難にも負けない港町

埼玉県から参加した岩田伸康さんは「被災地に何か手伝ったかった。せめり、澄んだ歌声とともに震災からの古里再生への思いを聴いた。」と話した。

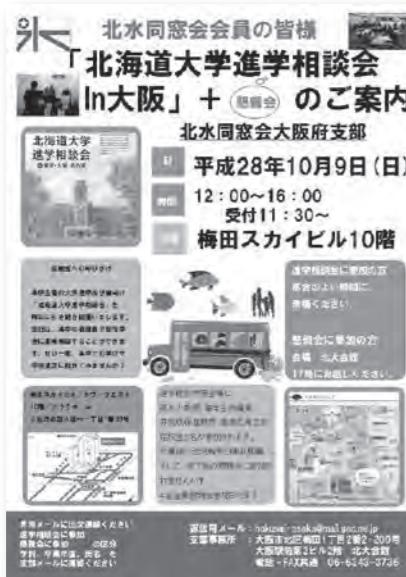
埼玉県のシンガーソングライター熊谷育美さんは、困難にも負けない港町

●2016年(平成28年)10月22日(土) 河北新報気仙沼地域版記事抜粋(転載許可済)

寄稿

北海道大学 進学相談会(大阪会場)後の 懇親会の報告

吉村 直孝(平3ゾ)



平成28年10月9日(日)12時より梅田スカイビル(タワーウエスト10階アウラホール)において、北海道大学進学相談会(大阪会場)が開催されました。初めて見に行きましたが、参加者の多さに驚きました。大阪支部長の田中先輩(昭50食)に促され、山口総長にもご挨拶する事ができました。そうこうしている間に相談会は16時で終了となり、徒歩で北大会館(大阪駅前第2ビル2階)に移動し、17時より相談会の対応に当たられた高木教授(平元ギ)、井尻准教授(平4ゾ)、神戸出身の阿部君(海洋生物資源科学専攻M1)と大阪出身の山上さん(増殖生命科学B3)の慰労を兼ねた懇親会に突入しました。

田中支部長より冒頭のご挨拶をいただく中、中村君(平15シ)が滑り込み、参加予定者20名全員が揃ったところで、大野先輩(昭36セ)に乾杯のご発声をいただき、改めてスタートとなりました。皆が喉を潤したところで、相談会の対応に当たられた4名の方々から自己紹介+αを頂戴しました。最初は阿部君から前夜

の名古屋会場での懇親会での出来事を話してください、次に山上さんから将来は水族館への就職を熱望している話を伺いました(その間、参加者全員、テーブルの食事に一切手を付けず、真面目に聞いてました)。

その後、酔いが回る前に藤井先輩(昭61ギ)による記念写真の撮影が行われ、参加者全員から自己紹介、近況報告、現役学生へのメッセージ等、お話をいたいた後、個々にご歓談いただき、大いに賑わいました。

楽しい時間は過ぎるのが早く、あっという間に終了予定時刻である20時を回ってしまいました。最後は恒例の寮歌の合唱です。井尻准教授の前口上に始まり、参加者全員が肩を組み、「都ぞ弥生」(なぜか1番だけ)と「水産放浪歌」(こちらは3番まで)の大合唱、最後は大野先輩から「フレー、フレー、北水」「フレー、フレー、同窓会」と力強い中締めをいただき、宴は閉会となりました。

その後、大阪府支部では平成28年11月26日(土)15時半よりトップラウンジ31(中之島センタービル31階)にて支部総会が実施される旨、案内がありました。今回の参加に当たっては、田中支部長に個人的にお世話いただいた事がきっかけでしたが、北水同窓会の団結力の強さと同窓の絆の強さを改めて認識できる機会となり、本当に良いものだとつくづく実感することができました。最後に、この度の懇親会の開催に当たり、準備・運営に当たっていただいた大阪支部の関係者の皆様に御礼申し上げます。

懇親会参加者名簿 20名

大野 正浩(昭36セ)	上田 稔(昭45化)
入江 和彦(昭45ギ)	田中 文夫(昭50食)
室井 智子(昭50食)	佐々木雅人(昭56化)
廣瀬 裕(昭59食)	藤井 英嘉(昭61ギ)
高木 力(平元ギ)	吉村 直孝(平3ゾ)
井尻 成保(平4ゾ)	若林 真由(平5修食)
堀越 光晴(平8ギ)	藤原 匠逸(平13生)
中村 拓真(平15シ)	櫻井 遥平(平19生)
松川 広輝(平24増生)	陳 天燕(平28修増生)
阿部 悟(海生M1)	山上 十和(増生B3)

□学位取得者

【平成28年9月取得】

取得者	論文題目
-----	------

金 銀好	音響手法を用いた北海道噴火湾周辺における動物プランクトン群集の生態に関する研究
------	---

Achmad Fachruddin Syah	Spatial modeling of Pacific saury (<i>Cololabis saira</i>) potential fishing zones in the western North Pacific using remotely sensed data(リモートセンシングを用いた西部北太平洋におけるサンマの潜在的漁場の空間モデリング)
------------------------	--

櫻井 慎大	Phylogenetic relationships of the family Congridae and related taxa (Teleostei: Anguilliformes) (アナゴ科およびその近縁群の系統分類学的研究)
-------	--

佐々木嘉子	Comparative Osteology and Myology of Baikalian Sculpins (<i>Acanthopterygii: Cottiformes</i>) and Their Phylogenetic Relationships (バイカル湖産カジカ類の骨格系と筋肉系の比較形態学および系統類縁関係に関する研究)
-------	---

Nurhidayu Binti Al saari	A strategic approach for optimization of fermentative hydrogen production of marine Vibronaceae species using Design of Experiments (DOE) (実験計画法に基づく海洋性ビブリオの水素生産の最適化)
--------------------------	--

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円～承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本 社 〒040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939
釧路営業所 〒084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103
札幌出張所 〒065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE (011) 299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

□会員異動

○平成28年4月1日付 採用・異動等

高木 省吾 水産学部附属練習船おしょろ丸准教授が水産学部附属練習船おしょろ丸船長に再任
 清水 晋 北方生物圏フィールド科学センター学内流動教員(准教授)として任用
 山村 織生 水産科学研究院准教授に採用
 矢部 衛 水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
 今井 一郎 水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
 門谷 茂 水産科学研究院前教授が同特任教授に採用

○平成28年7月1日付 採用

米山 和良 水産科学研究院助教に採用

○平成28年10月1日付 採用

石原 千晶 水産科学研究院助教に採用

○平成28年11月1日付 採用

阿部 泰人 水産科学研究院助教に採用

見つめ直そう。
健康的な食生活に魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川 栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号
 鮮魚部 TEL 017(738)1281
 冷凍部 TEL 017(738)8221
 塩干部 TEL 017(738)5511
 加工部 TEL 017(738)6581
 企画部 TEL 017(738)1281
 管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>

会員死亡通知

千葉 昇(昭12ギ)	平成28年11月15日	ご家族様より
折口 政行(昭14ギ)	平成28年11月 7日	ご家族様より
吉田 清(昭15ギ)	平成28年11月14日	ご家族様より
丹羽 正一(昭17ギ)	平成24年	愛知県支部様より
谷 雅夫(昭18ヨ)	平成28年 8月20日	ご家族様より
山本 忠雄(昭19ギ)	平成29年 1月31日	大山公男(昭22ギ)様より
有馬 良雄(昭20ゾ)	平成28年10月29日	ご家族様より
佐治 鐘六(昭22ギ)	平成28年 9月29日	市川 渡(昭22ギ)様より
塩越 昭男(昭23教セ)	平成26年 8月31日	ご家族様より
吉田 欣司(昭23ゾ)	平成28年11月 4日	ご家族様より
生田 浩三(昭24ギ)	平成28年 8月10日	ご家族様より
高井 英一(昭24セ)	平成28年 3月10日	田澤季長(昭24ゾ)様より
日野 輝夫(昭24セ)	平成29年 2月14日	ご家族様より
宮本 荣昭(昭24セ)	平成28年 4月19日	ご家族様より
伊藤 義昭(昭24ゾ)	平成26年 9月12日	田澤季長(昭24ゾ)様より
小川 信三(昭24ゾ)	平成28年 8月22日	ご家族様より
増永 勲(昭24ゾ)	平成26年10月25日	田澤季長(昭24ゾ)様より
牧野 英一(昭24教ゾ)	平成27年11月27日	ご家族様より
三觜 修(昭24教ゾ)	平成27年 2月	ご家族様より
長峰 良典(昭25セ)	平成22年 8月	青森県支部様より
橋本 幸二郎(昭26ギ)	平成28年10月 3日	ご家族様より
小山 松二(昭26エ)	平成28年 9月30日	前田辰昭(昭26エ)様より
伊勢 良一(昭26教セ)	平成28年10月24日	坂元輝行(昭35セ)様より
秦 祐幸(昭28ギ)	平成27年 5月22日	ご家族様より
佐藤 照夫(昭28エ)	平成28年 1月19日	ご家族様より
前田 謙吉(昭28セ)	平成28年 9月11日	山形県村山支部様より
宮台 宏(昭28セ)	平成28年 8月25日	ご家族様より
小野 斎(昭29ギ)	平成28年10月17日	宮城県支部様より
鈴木 武治(昭29セ)	平成28年 9月20日	ご家族様より
佐島 隆治(昭30セ)	平成24年頃	川崎潤二(平3ギ)様より
関 松夫(昭30セ)	平成28年 6月11日	ご家族様より
竹島 康雄(昭30ゾ)	平成28年 8月23日	ご家族様より
柴田 勝明(昭31エ)	平成28年 8月22日	吉野秀男(昭31エ)様より
水野 元英(昭32エ)	平成28年 5月17日	ご家族様より
西本 勉(昭33ギ)	平成28年 2月 5日	ご家族様より
茂木 善次郎(昭33セ)	平成28年 4月 8日	ご家族様より
伊藤 演(昭34ギ)	不詳	ご家族様より
橋本 宏文(昭35エ)	平成28年11月22日	ご家族様より
古東 宣勝(昭36セ)	平成28年 8月16日	ご家族様より
壁矢 恵行(昭37ギ)	平成28年10月27日	ご家族様より
渡辺 宏(昭39セ)	平成28年11月19日	宮城県支部様より
村井 武四(昭39ゾ)	平成28年12月24日	原 彰彦(昭46ゾ)様より
上野 洋(昭40ギ)	平成28年12月23日	梶原 武(昭40ギ)様より
小林 政利(昭40ギ)	平成28年10月16日	米田国三郎(昭40エ)様より
青山 宝蔵(昭42ゾ)	平成13年頃	小川弘毅(昭42ゾ)様より
佐藤 勝英(昭44化)	平成28年 3月24日	ご家族様より
齊藤 裕(昭47ゾ)	平成27年 4月12日	ご家族様より
井上 実千代(昭49化)	平成28年 9月17日	ご家族様より
北出 弘(昭52ギ)	平成29年 1月 2日	三橋正孝(昭53ギ)様より
古田 均(昭59食)	平成28年 9月15日	学内より
福島 正巳(昭62化)	平成28年12月11日	伊藤 浩(昭62化)様より

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(hokusualumni@gmail.com)のみ受け付ける。写真は入れられない。

〔編集後記〕

平成28年度「親潮」第2号(通算308号)をお届けします。特集「北水の今」は教育・研究についてのトピックスを扱っております。最近は、管理研究棟や水産標本館、七飯淡水実験所の竣工に関する記事を掲載してまいりましたが、本号では、現在、水産学部で力を注いでいる海外ラーニングサテライトに関する記事を掲載いたしました。本プログラムは、海外のラーニングサテライト(協定大学等)において、現地学生とともに本学の授業科目を受講するプログラムで、交換留学や大学院進学へ視野を広げる機会として非常に役立つプログラムとなっています。水産学部では今年度に、東南アジア漁業開発センター(タイ)、シンガポール国立大学(シンガポール)、南ボヘミア大学(チェコ)、ヴァルミア・マズールイ大学(ポーランド)と協働して4つのラーニングサテライトを開催しました。特集記事では、ヴァルミア・マズールイ大学でのサマーコースについて取り上げ、水産科学研究院の笠井久会先生、藤本貴史先生、都木靖彰先生、そして本コースに参加された大学院生の遠藤 充君にご執筆戴きました。皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。表紙には、ヴァルミア・マズールイ大学におけるサマーコースで撮影された写真を掲載しております。

行事開催報告としては、北大の同窓生が集う「北海道大学ホームカミングデー2016 水産学部卒業生の集い」の開催の模様を掲載しております。是非とも内容をご覧ください。

また次回、青森市で開催予定の北水同窓会定期総会の開催案内も掲載しております。ご都合が合われる会員の皆様は、是非ご参加下さい。

来年度第1号(通算309号目)の原稿の締め切りは、平成29年7月

10日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusualumni@gmail.com)にて受け付けておりますので、支部報告や同期会報告、著書の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い致します。また親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。同窓会誌に対するご意見やご感想等を募集しております。詳しくは上欄に掲載しております投稿規定をご参照下さい。

また支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事／宇治 利樹(平18生)

平成29年2月発行

北水同窓会

〒041-8611 函館市港町3-1-1
TEL & FAX.0138-42-3681
E-mail:hokusualumni@gmail.com



海洋土木株式会社

〒104-8139 東京都中央区銀座3-9-1 TEL:03(3544)5511

代表取締役 木實谷浩史 (54才) 取締役副社長 石井直志 (49才)
取締役札幌支店長 佐々木洋 (53才) 青森営業所長 山口伸治 (49才)
北陸営業所長 魚住昭文 (52才) 札幌支店部長 日和久典 (平6才)

交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

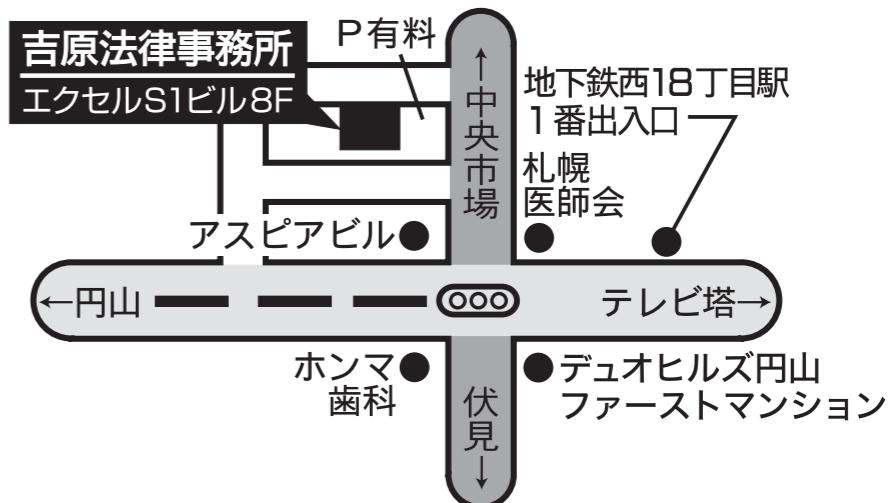
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通)東西線西18丁目地下鉄1番出口

E-mail lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においてになれない方はご相談下さい。



つる はち
株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉励

代表取締役社長 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 優行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F
TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店 〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203 TEL 0178-71-3488

銚子支店 〒288-0051 千葉県銚子市飯沼町186-93 八木友ビル2F TEL 0479-25-8822

大阪支店 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江3-14-12 イイダビル2-2A TEL 06-6532-8886

福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F TEL 092-401-8828

関連会社 築地:(株)釣十(マグロ仲卸) 中国:大連釣八(水産物加工)
アメリカ:ロスアンジェルス:フィッシングエイト タイ・バンコク:釣八タイランド

株式会社 グローバルスタッフイング

労働者派遣事業許可番号:派13-306347 職業紹介事業許可番号:13-ユ-307639

株式会社グローバルスタッフイングは、水産商社株式会社釣八の関連会社として設立され、釣八の顧客である水産加工業での人手不足に対応するためにミャンマー、ベトナム等よりの人材の紹介・派遣を行うことから始まりました。

人材紹介!

人材をお探しの際はご連絡ください!

～研修生 実習生 就労ビザ アルバイト紹介等～

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目8番7号ザ・ロワイヤルビル5F

TEL 03-6228-3078